

対人援助学マガジンの 上手な読み方

先日の第2回対人援助学会WSでのことです。「マガジン」の読み方について、ある人から聞かされた話をしたところ、思いがけない好評を得ましたので、それを書いておきます。

その人は最初、「対人援助学マガジン」一冊をプリントアウトしたそうですが、なかなか読みきれなかったと言いました。クリップで留めて、机の上に置いているうちに、書類の山に埋もれてしまったそうです。

そこであるとき、改めて、今度は関心のある章(特定の執筆者)だけを、プリントアウトしたそうです。こうするとたいてい4, 5頁から多いモノでも10頁。

バッグに入れて出張先に向かいました。電車移動の車中、昼休みなどに目を通していたら夕方には読み終えていました。

そこで、そのとき仕事で一緒になった、隣接市の同職者に、「今これ読み終わったんだけど、面白かったので、良かったらどうぞ!」とペーパーを渡して出典の「対人援助学マガジン」へのアクセス方法も話したと言います。

これはなかなか素敵な読み方であり、PRでもあります。100頁を超す「対マガ」(何でも縮めて言う傾向はお気に召しませんか?)を常時持ち歩いても、なかなか読めません。荷物になるし、鞆の中でだんだんボロボロになりますね。

ところがこの方法だと、読み終えたところで荷物が減ります。受け取った相手が、読むか読まないかは自由ですが、受け取る側には新規情報であるのは確かでしょう。

WEB版マガジンに、こういう読み方、使い方があるのは発見でした。是非皆さんも、お試しいただきたいと思います。

そして、お読みになった章、文章だけの感想で良いので、フィードバックをいただくと筆者達のモチベーションも、いっそう上がると思います。どうぞよろしく。

(編集長)